

銀座街づくり会議

104-0061 東京都中央区銀座4丁目6-1 銀座三和ビル3F

HONE: 03-3567-1535 ● FAX: 03-3563-0236 ● <http://www.ginza-machidukuri.jp>

- このNEWS LETTERは、全銀座会会員、銀座街づくり会議関係者の方々にお送りしています●
- 本誌の内容を、許可なく無断で複製・転載することを禁じます●

昨年末に刊行した「銀座デザインルール第二版」の出版を記念して、3月23日(金)ウェンライトホールにてシンポジウムを開催しました。当初90名の定員で募集したところ、すぐに満席となりましたので、教文館様にご協力いただいて会場を広

くし、新たに椅子をお借りして150席をつくりましたが、それでもお断りせざるをえないほどの申し込みをいただきました。皆さまに関心を持っていただき、ありがとうございます。そして、申し込みをお断りした皆さまにお詫び申し上げます。

「銀座デザインルール」第二版 出版記念シンポジウム



『世界の潮流からみた「銀座のルール」』



事例の積み重ねによるデザイン協議

-600件の実績をひまえて

2006年に設立された銀座デザイン協議会では、すでに600件を超える案件申請の実績を重ねています。銀座デザイン協議会の特徴は、数値や言語で規制することなく、行政の手を借りずに地元主体で協議していることです。銀座は強いコミュニティの基盤に立って協議を成立させていますが、このようなあり方は世界的にみてどのような位置付けにあるのでしょうか。

最初に、銀座街づくり会議アドバイザーとして「銀座デザインルール第二版」の執筆・編集に携わった蓑原敬さん(都市プランナー)、小林博人さん(建築家、慶應義塾大学教授)、中島直人さん(慶應義塾大学専任講師)の3人から出版の報告がなされました。

誰もが参加できるまちづくり：世界の事例

基調講演はドイツ出身のディマ・クリスティアンさん(東京大学先端科学技術研究センター特任研究員)からお話がありました。多くの街では大規模な箱型ショッピング施設がつくられ、そういった施設では内部にはにぎわいのある公共空間がつくられますが、外側の、街と関わる領域には何も無いことが多いのです。ショッピングの街・銀座は、ファサードにはにぎわいのある、ヒューマンスケールな空間になっていますが、ちょっと休んで街を眺めることのできるような公共空間が、あまり存在しないのが残念です。

都市間競争が激化する中、競争力を高めるには、自分たちのポテンシャルをもっと活用する必要があります。銀座のポテンシャルは、大通りと区道、路地と、さまざまな通りが人間的な空間で存在していることです。特に路地はおもしろくて人にやさしいスペース。もっと積極的に活用すべきでしょう。そして、世界の

なかでとらえる時、東京全体を見渡したまちづくり活動も必要です。

また、ドイツのさまざまな都市の事例を紹介しながら、豊かな公共空間のための戦略づくりの重要性が話されました。エリアの戦略を専門家と市民がオープンなプロセスでつくりあげていくこと、変わりゆく時代に対応する戦略であることが大切です。そしてそれが人間的スケールにもとづく計画であること、全体的な公共空間、銀座でいえば路地の再発見のようなことがキポイントであると締めくくりました。

国際的な視野から語る 銀座のルールと街の将来

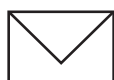
続くパネルディスカッションでは、窪田亜矢さん(東京大学大学院准教授)が「都市の文化」というキーワードを提示し、銀座には都市の文化があり、日々醸成されている、そうしたアクティブな状況をキープすることが銀座の生命線なのではないかと指摘しました。世界では、こうした都心部の「歴史的都市景観」が熱い話題です。たとえばニューヨークでも都市計画だけでなく空間の質についての協議の二本立てによって文化的なまちづくりがなされています。

銀座街づくり会議からは竹沢えり子が登壇し、身近な課題である自転車問題を、銀座の都市デザインに結びつけつつ、「銀座デザインルール」を個々の建物や広告だけでなく、都市デザイン全体を議論できる場にしていきたいと話しました。

会場からは、銀座まちづくりがルールや仕組みだけで動いているわけではないことが指摘され、活発な意見交換が行われました。

シンポジウムの資料について・・・

- ・DVD 貸し出ししています。
- ・議事録 ご希望の方には、実費でお分けしています。ぜひ町会や各店舗での勉強会などにお役立てください。



このNEWS LETTERは、メール配信もしております。メール配信をご希望の方は、下記までお知らせください。

» info@ginza-machidukuri.jp